

題 言

關 西 工 事 號

新年初頭に於て工事畫報を關西工事號とする事は兼て紹介せんとして果さざりし原稿を新進の工事狀況を得たる機會を利用して爰に特輯號を發行するに至つた。本號に特に關係はないが藤井氏の混凝土工事の基本經濟に關する別冊附録は最も有益なるポケットブックとして類例なき試みで一日も早く各位の必讀實行を望むものである。

關 西 の 異 彩

1

直木博士が株式會社大林組の重役となり、復興局長官から民間の請負業會社に入れた事は我が工事技術界に對して大なる刺戟を與ふるものである。前の大臣諸公が實業會社に入る事は既に今日では珍らしくない如く。大林組昨今の實力としては尙ほ二人三人の直木博士あつて然るべく、斯くて日本の工事請負業が國家の重要な實業として其技術が眞劍に組織的のものとなる事を喜ぶものである。

2

復興局では昨年十二月隅田川出張所長の釘宮磐氏が名古屋鐵道局の改良工事、木曾川のケーソン工事詰所に轉ぜられたる事も一寸變つた事である、内部の事情は兎に角、所長なんきの肩書を脱して現場詰所に實際的の工事手腕を振はるる事は斯界の爲め欣快に堪えない。

3

神戸鐵道局長石田太郎氏は京、阪、神、中心の大都市運輸計畫を説かれる、それは總て關西に於ける一大土木である、此等事業を工事遂行に當るべき新人は何人であらう。

4

神鐵工務課長河野繁一氏が御互に工事に關係して之が發達を圖らん爲めには役所も民間も階級的觀念を一掃して設計施工相伴はねばならん事を力説されたのは同感にたへない。

5

其他關西に於て記者を激勵せしめたる諸氏の談片は今爰に列擧すべくもないが、要するに青年技師が新興日本の技術を實行する爲めに如何に眞面目なる努力を捧げつゝあるかは感謝に耐へない。

6

關西工事の代表的なるもの、元より本號のみにて及ばない材料も多數にある。漸次號を改めて報導したいつもりである。